

横川っ子だより



深めよう 学年の絆 一期一会の旅にしよう

10月16日、17日に、6年生が奈良・京都の修学旅行に行きました。昨年度、奈良公園の班別分散研修で計画通りに行動できなかったという反省がありました。その理由に、「地図を見ても、どうやって目的地に行けばよいかわからない」「鹿と触れ合っていたら時間がなくなった」などがありました。

そこで、今年度は事前に、Googleマップを使って地図の見方を学び、スタートの東大寺から見学地まで、どう動けばよいかイメージをもちました。

当日は、交通渋滞や混雑により、班別分散研修が遅れてスタートしたので、ゴールの旅館到着が遅れる班があるかもしれないと思っていました。しかし、子どもたちは、状況に応じて見学の時間を短くしたり、早めに行動したりしながら、全ての班が時間内にゴールすることができました。旅館での生活にも心配りが見られました。旅館の人へのあいさつ、靴やスリッパの整理整頓だけでなく、食べた後の食器を片付けやすいようにお皿ごとにならべていました。5分前行動や人への気配り、感謝の気持ちがよく表れていて、感心しました。

仲間と協力して旅の目的を達成することに楽しみを感じ、旅先で出会った人の気持ちを大切にすることで心がつながるあたたかさを知った素晴らしい修学旅行となりました。

成功のポイント！

- ・事前の備えがしっかりできたことで、状況に応じた判断ができました。
- ・人の気持ちを考えた行動ができたことで、感謝の心をもつことができました。



「ロウソクの科学」が化学への興味の原点

ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏は、小学校の先生の勧めで、英科学者ファラデーの著作「ロウソクの科学」を読み、自然の原理に触れたことが化学への興味の原点となったそうです。小学校の先生が、「ロウソクはなぜ燃え続けるのだろうか？」疑問を投げかけたことで、我が事感をもって学び続ける姿が改めて大切であることがわかります。

横川小学校の授業では、学習課題を提示する際、「～について考えよう」ではなく、「どうしたら～だろうか？」と疑問を投げかけるようにしています。

成功のポイント！

- ・言葉の力で人は自信をもつ一方で、配慮に欠けた言葉で人は自信を失います。
- ・感動、驚き、疑問といった刺激を提供することで、子どもの心に火が灯ります。



ラグビー日本はなぜここまで強くなつた？

ラグビー日本代表は、今大会、準々決勝で敗れたものの初のベスト8進出という歴史的な快挙を成し遂げました。外国出身の選手も多く、様々な文化をもつ選手たちが強く結束した「ONE TEAM」になることで、体格で勝る強豪と互角以上に渡り合えることを世界に示しました。

何より、ラグビーには、人に勇気を与えてくれる魅力がありました。

- ・自分より大きな相手に真っ向からぶつかっていく姿
- ・力の強い人、足の速い人、それぞれの持ち味を発揮し、全員でパスをつなぎながら、一歩でも前へ進もうとする姿
- ・ノーサイド、最後に勝っても負けても互いに健闘を称え合う姿

日本代表は「なんのために勝つのか」という問いに対して、「憧れの存在になるために、勝とう」という目的をみんなで共有していました。その結果、素晴らしいチームになりました。

日本代表には日本を含む7つの国の出身者がいて、様々な言語や文化が集まるいわば「多国籍チーム」です。このため日本代表としての意識を高め、お互いに意思疎通して同じビジョンをもつことが強豪に勝つために欠かせなかったのです。

そのうえでジョセフヘッドコーチが求めたのは、選手一人一人が自ら判断し、行動する精神面の強さとも言える自主性でした。キプテンのリーチマイケル選手だけでなく、出身国を問わずリーダーの役割を与え、攻撃や守備などの分野でチームを引っ張ることを意識付けていきました。



世界レベルのスピードを見せつけたウイングの福岡堅樹選手は「本当にきつい合宿を何度も乗り越えて『ONE TEAM』を作り上げ、お互いのことを信頼し合って戦えるチームができた。前回大会での悔しい思いが、今大会の躍進の要因なのは間違いない。そして、日本の人たちの声援が確実に力になっている」と話していたのが印象に残りました。

成功のポイント！

- ・一人一人が自ら考え、行動するという自主性が発揮されました。
- ・チームの一員として自分の役割を理解し、そこに全力を尽くす、まさに全員主役の意識がありました。
- ・お互いのことを信頼しているからこそ、最後までがんばれました。

